



1階D展示室

植田正治写真美術館
第25回
フォトコンテスト
入賞・入選作品展示

会期 令和6年11月6日(水)～12月9日(月) 入館料 無料

今回のコンテストでは、一般の部452点、18歳以下の部276点の作品応募がありました。
多数のご応募ありがとうございました。見事大賞を受賞された作品を紹介します。



「一般の部」大賞
「花田植えを終えて」 岩谷 順子



「18歳以下の部」大賞
「ツインズ」(3枚組のうちの1枚) 竹田 芽生

1階D展示室 写真展 第31回 伯耆町写真展 [会期] 令和6年 11月6日(水)～12月9日(月)

2・3階展示室

植田正治 山陰の風土に生きて

多くの人々にとって植田正治のイメージは「砂丘」でしょうか。不思議な空間、オブジェのような配置、スタイリッシュな構図など。しかしながら、これらのイメージとは別に、植田の写真のベースは、やはり「山陰」です。
1930年代から70年代のはじめまで、植田はほとんどの写真を「山陰」という限られたエリアで撮影しています。ただし、単に「山陰」を愛し、その美しさに魅かれたという写真ではありません。写真をはじめた1930年代、植田は海外の前衛写真に影響され、写真表現の無限の可能性を意識します。戦争前後の演出写真と呼ばれる植田独自のスタイルが評価されながらも、1950年代から演出写真を離れ、あらたな表現の道を探ります。もちろん「砂丘」も「山陰」を特徴づける重要なアイテムですが、もっと身近で日常的な「山陰」が植田の写真のベースとなっています。人々の平凡な暮らし、無邪気な子ども、四季の自然、さまざまな祭りや行事、当然ながら植田はファインダーをのぞきながら、「山陰の風土」の中に容易に入り込み、溶け込みながらシャッターを切ったのです。
今回の展覧会は、「山陰の風土」をテーマに植田の初期から1970年代までの作品を中心に紹介します。一見、スタイリッシュな写真とは真逆に見える写真ばかりですが、地元にこだわり続け、さまざまな手法でとらえた「山陰」を紹介しながら、その「まなざし」をあらためて浮き彫りにします。



伯耆町立植田正治写真美術館 TEL:0859-39-8000
問い合わせ先 ■メール: bijyutsukan@houki-town.jp ■ホームページ: https://www.houki-town.jp/ueda/
■開館時間/10:00～17:00 (最終入館は16:30) ■休館日/毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)

町民の方は入館無料です。※ご来館の際は広報ほうき10月号無料招待券または免許証など住所のわかるものを提示してください。

大山ますみず高原 天空リフト
～空中散歩で絶景広がる感動パノラマへ～

町民無料招待券

大山ますみず高原天空リフト 往復券
※本券1枚で4名様までご利用いただけます。
有効期限: 令和6年11月24日まで

大山ますみず高原天空リフト
西伯郡伯耆町大内樹水高原1069-50
TEL0859-52-2228